

学校教育目標 豊かな人生を切り拓き、よりよい未来の創り手となる生徒の育成

波佐見中学校学校便り

第26号
編集・発行
波佐見中学校
校長 池本敦司

なぜその職業を選んだのですか？



自分たちが考えてきた質問項目をもとにしてパネラーの皆さんに質問をする生徒＝1月23日ウェイブホール小ホール

2年生トークセッション

1月23日(木)ウェイブホールでウラベメグミさん、太田龍雅さん、川副直美さん、今里圭介さんをお招きしDJマークさんの司会で2年生がトークセッションを行いました。寮業が盛んな町波佐見で、その寮業に様々な形で関わる仕事をさ

れている皆さんと生徒たちがざっくばらんに意見交換し「家を継ぐこと」「その職業についてたきつけかけ」「サステナブルな取組」「仕事の喜びややりがい」「生徒の立場で波佐見のためにできること」など多岐にわたる話題で会話は進みました。マークさんがラジ

オパーソナリティになった。だつと考えました。私も今中学生だったら：どんな職業を選んでいいかと思いません。

きつけかけは「お母さんが聞いていたラジオの社員募集がきっかけ」とのこと。どこでどんな縁やつながりがあるのか、わからないものだと思いました。中学校の時には波佐見にまったく関心がなかった方が家業を継ぐ、モノづくりをする中で出てくる廃棄物を再利用して新たなものを生み出す、波佐見町のふるさと納税の広報に関わるデザインをする、町外出身の方が波佐見の焼物関係の会社に就職するまでなど、話題は尽きず、あつという間の90分でした。

波佐見町生涯学習のつどい

1月26日(日)ウェイブホールで波佐見町生涯学習のつどいが開かれ2年の楠田さんと中田さんが意見発表を行いました。

楠田さんは自分が変わるきっかけとなった合唱コンクール実行委員の体験と生徒会専門委員長への立候補について語りました。最初はうまくいかなかった合唱コンクールの練習でも実行委員として学級の金賞受賞に向けて呼びかけ続け、みんなと作り上げたハーモニーが、そのあとの楠田さんを大きく後押しした。その経験が専門委員長就任という積極的な自分につながっているのがわ



発表の様子

た時さりげなく支えてくれた家族。この経験を通して家族の絆が一層深まったとのこと(お母さんは元気にいられています)。原稿作成、発表練習と大変だったと思いますが素晴らしい発表で波中の魅力アップにつながりました。指導していただいた先生方もお疲れさまでした。



発表の様子

かる発表でした。

中田さんの発表は、家族のつながり、支えあうことの大切さが伝わってくる内容でした。突然の母の病気で自分自身も家族も今までの日常が日常でなくなる。母親の代わりを果たすために行う家事の大変さ。それに押しつぶされそうになつた時さりげなく支えてくれた家族。この経験を通して家族の絆が一層深まったとのこと(お母さんは元気にいられています)。

校長日記

学校では年末から入試の面接指導を行っている。校長室に緊張した面持ちで入ってくる「受験生」たち。本人たちが持っている「受験のしおり」には、あらかじめ用意した「答え」がびっしり。よく準備している▼ひとまず、私も必ず聞かれるであろう受験番号や出身学校名などを聞く。続いて志望動機。ここまではスムーズ▼少し突っ込んで、私「今、〇〇と言いましたがなぜそう思ったのですか」生徒「それは…。または、過去の質問例に載っていない内容を聞いてみる。生徒「えー、あー」想定外の質問はスラスラとはいかない。でも波中の受験生は何とか答えようとする▼そう。それでいいんです。相手の問いを一生懸命理解しようとする、誠実に答えようとする、困っても何とか自分を表現しようとする。そんなところを本物の面接官も見ていると思う。大丈夫。自信を持って臨んでください!